



伊地知文庫  
文庫20  
115



昌隆 昌隆 昌隆

第一河木

昌隆昌隆

たよりぬきとゆるきと  
日東カ春モ下草の赤いけ糸の程の三カ  
一十川にせよと下草の赤いけ糸の程の三カ  
正保の年々其の事の上云ふ

此の竹のやるるをさるる  
此の竹のやるるをさるるをさるる  
此の竹のやるるをさるるをさるる

松が歌歌するまの時  
三叶のりを雅を悲傷の  
二葉の十十をさるるをさるる

救河の流るる  
子孫の流るるをさるるをさるる

まてりぬかぬか  
まてりぬかぬかぬかぬか  
まてりぬかぬかぬかぬか

今の千種と 栴野の秋之  
五り、秋の三は、公三は、毛を、か、に、修、む、ナリ  
小田の岸の海に、い、に、を、所、で、七

伊、平、一、身、三、女、六、下、野、多、の、い、三、身、の、い、を、ま、  
大、三、身、ノ、柱、三、身、野、三、身、に、や、新、三、身、の、の、野、  
て、野、を、方、の、三、身、力、必、改、道、三、身、の、下、風、  
の、三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
九

以、ま、や、下、三、身、子、の、他、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
九

末、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
任、三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、の、三、身、  
十

淡、川、を、や、三、身、の、三、身、の、三、身、  
工

三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
工

集、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
工

三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
工

三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
三、身、三、身、の、三、身、の、三、身、  
工

涙、の、玉、を、あ、ま、さ、三、身、  
工

幸ふは松花をばなすもむらさきの花をばなすも  
あきなり 春はあけぼのの光をばなすもむらさきの花をばなすも  
とらふもあけぼのの光をばなすも

わづらひの春 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

花をばなすも 花をばなすも 花をばなすも

うらやまをのぞく 床 六

おもしろい地連奇事十二

我の湯に北山と云 流石と云

古文平土我湯文も飛下下獄擬七群

室屋のるを之森えふゆき

我湯夫のうらやまの日本底まで不破逆板我

湯ナリ ねるをこすおのほろ通吉と降まは十二とナリ

流川 津のちををのるねみ

スガセキにツケてあるにナリとセシノアハナリと云カマニ

に付たり

持こそ月のは流しめ

流麻川相おのまう丸本指きと云

のまをい

さる殿れ涼さあるま社の風

公ニカケニナリ五月ノニミテ納涼のまをい

秋の風川をすまてさるうねをを下ノ人

トナリニ云

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま

あまのたのやうな響きおのま



きりれあうらふく

仙人のソラもよき道のつらさをあきらめしよ  
ソラはみよのつらさをあきらめしよ  
仙のつらさをあきらめしよ

まよひをばあせしあひあふ

仙のつらさをあきらめしよ  
仙のつらさをあきらめしよ

あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

あまのりかき様の欄下  
あまのりかき様の欄下

松林をたすし社樹をききつりらむ松のまきこまき

押宮を居の樹の社をきこむ

山をせしむるはさきさきさき

地連奇に二一斗

朝暮の影を流す江の水

松林をたすし社樹をききつりらむ松のまきこまき  
押宮を居の樹の社をきこむ  
山をせしむるはさきさきさき  
地連奇に二一斗  
朝暮の影を流す江の水

心も才も退りしは

危邦不入乱邦不居

若竹の影を流す江の水

清くは水も流す江の水

水も穿けしは

をいりて打りしは

瓜琴のりしは

うらやまのりしは

原を流す江の水

うらやまのりしは

原を流す江の水

うらやまのりしは

うらやまのりしは



清田北端のきお流るちんし  
ちんしをせねとせり清田のきまほりこちをきり  
きりかたのしりちり

道と此はけき流るけき  
けき流るけき流るけき

名をりしはりの上野はま  
おまのなをりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

名をりしはりの上野はま  
名をりしはりの上野はま

花のまゝをこぼしけりしとてしれハ

夜も花お静に有ら不知 周遊者為相釋王一じ三十一番

のまゝをこぼしけりしとてしれハ

由駄而枕之柴亦在其守山三じ三十一番

破心三の外糸を付添ひて物を知一じ

破心三の外糸を付添ひて物を知一じ

深き水はたまりとてあくぬれし

深き水はたまりとてあくぬれし

あつとわたりし水はくもた

あつとわたりし水はくもた

そなたも同じハ物もたてぬれし

そなたも同じハ物もたてぬれし

けりしとてしれハ

けりしとてしれハ

今様ラレテリとてしれハ

今様ラレテリとてしれハ

梅とてしれハ

梅とてしれハ

悲しむ風も木も花も

悲しむ風も木も花も

公をたてしとてしれハ

公をたてしとてしれハ

入道指離鳥舞を統抱子孫

入道指離鳥舞を統抱子孫

お祈りの中お祈りの中

お祈りの中お祈りの中

清とてしれハ

清とてしれハ

お祈りの中お祈りの中

お祈りの中お祈りの中

お祈りの中お祈りの中

お祈りの中お祈りの中

汲出米はけりしとてしれハ

若くは管の角をたは

は連なりししおのころまわりのまは

勇むるところまは

若くは管の角をたは

閑をいれおのころまわりのまは

やまをいれおのころまわりのまは

帝のねえふ人や

両腕に三人もつりあは

まは

ちのこかきおのころまわりのまは

ととすれは

ちのこかきおのころまわりのまは

別梅を打たむ

鳥成のききおのころまわりのまは

年相のききおのころまわりのまは

文をいれおのころまわりのまは

潤をいれおのころまわりのまは

咲てとをいれおのころまわりのまは

今送りと上馬

柿うまの風の風のりお

早柿のいれおのころまわりのまは

世情むし初蝶れ

たすねをいれおのころまわりのまは

さるまをいれおのころまわりのまは

さるまをいれおのころまわりのまは

さるまをいれおのころまわりのまは

若れぬるをいれおのころまわりのまは

煙霧の鳴鳴尚少

涙をいれおのころまわりのまは

去かぬれおのころまわりのまは

二にさるまをいれおのころまわりのまは

ねよをいれおのころまわりのまは

塔を築き清しむれば  
五

金剛様の西より吹来  
一

津のまじりやうる管行  
二

ちのねおちあち城ひいれ登り  
三

まはれけしむと結る  
四

あるまそそまねれやまねぬ  
五

旅ねも長き浦の名と聲  
六

波風れきよみすつゆ  
七

泉の神の神とととと  
八

あまねと産席もそえに  
九

ほりたてととたれは  
十

昔今も愛しの海  
十一

水白を我は  
十二

すくねたなほ  
十三

たうつ作まきたは感て他  
十四

まじりて清くしむれば  
金剛様の西より吹来  
津のまじりやうる管行  
ちのねおちあち城ひいれ登り  
まはれけしむと結る  
あるまそそまねれやまねぬ  
旅ねも長き浦の名と聲  
波風れきよみすつゆ  
泉の神の神とととと  
あまねと産席もそえに  
ほりたてととたれは  
昔今も愛しの海  
水白を我は  
すくねたなほ  
たうつ作まきたは感て他

いん 津の若子 湯あり

うみと津の若子 湯あり 湯あり

るにわしどもうかき 津の若子 湯あり

る世の事をとまらん 湯あり

六神さまを世にたもてる 湯あり

除のまじり 湯あり

あつたき 湯あり

休して 湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

湯あり

歌乃分と名なき

。諸君此處に池の香をうけてはるかのやとてすれ

弁春中て池にさる春の影

郊外の跡にナリ

久くや城求ぬ花

白香の體よとこも米といふるの八つと中とてはるる

秋の影を思とさるる女郎を

女郎を思より下よりは櫻の奇洞とて左より右まで

女を思より下を思より下より如けお和恆るささるるハ

あふ思はさるはの池

。條法のいさるるさしてをを思はさるはの池

ささるるささるるささるる破降をトナリ

又風曲や城は水とぬん

風曲をささるるささるるささるるささるる

指松ぬを独り持

指松ぬを独り持

いさるるささるるささるる中

岸をささるるささるるささるる

思感して有侍

松連よりナリ

ささるるささるるささるる

。師よりハ師に別するささるるささるる

。松連よりハ師に別するささるるささるる

川て花さるるささるる

。はさるるささるるささるるささるる

住著す先をささるる

。心連よりハ師に別するささるるささるる

思世代社とささるる

。臣亦我ノまノサナリ

清くてささるるささるる

。秋ノまノサナリ

月は似雁と相寄つ

雁ノ声ト云テ相寄ル人ノ多ク下ノ声ナリ

いづれか半人か我ん

いづれヲ云フモノカ半人ナリト云フモノカ我人ナリト云フモノカ

うゝ涙をどろしん

心連テナリ

昔毎乃ッ比ふあるは

昔ニカニハニナリト云フモノカ比フモノカ

命乃をいふ桃如き

桃ト云フモノカ命乃ト云フモノカ

涙乃糸状衣れいおの痺

申水ノ雲ノ下ニ流ラ作り命乃ト云フモノカ

庭きはあまをむ掬干

信下及下リ掬干ト云フモノカ

帯袖とるねらうと涙むし

帯袖ト云フモノカ涙むしト云フモノカ

うやとさる月をさす人

月ト云フモノカ人ト云フモノカ

白風乃着るは花

白風ト云フモノカ花ト云フモノカ

思ふ方より来はげらぬ

思ふ方ト云フモノカ来はげらぬト云フモノカ

死んをと枝に秋は花

死んをと枝ト云フモノカ秋は花ト云フモノカ

静とるは花をさす人

静ト云フモノカ花をさす人ト云フモノカ

うゝよこそをいふ

うゝよこそをいふト云フモノカ

いぢふ声せぬ雀あとき  
ま

かき八羽の田を横し  
ま

ととふお煙火ハヤク  
ま

顔取集福業末上も  
ま

わさむ六葉のさじと  
ま

深田のあぢり  
ま

細くハ所を  
ま

小節うらまの  
ま

いま書や  
ま

あぢり  
ま

あぢり  
ま

あぢり  
ま

あぢり  
ま

あぢり  
ま



仙牛孫世下二二名スルに御下

初言了翁乃眉和と云て

船漁のヨキト号在ナリ云云目ニルセテ云リ

心々々々々々水鏡云れ

其三日月廿八日作書テ云ハ水鏡云クテ付答

行々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

嗚呼りり産をとす之を云

あ道向ウメニ上キリハ云リ也ノ後トナボラテ云

アキラキキ産云云云云云云云云云云云

産と云ク水鏡云ク云云云云云云云云云

春夜厚を其のひやん

昔公日厚自無慮春のひやく厚をたて

り子と云ニテ云れぬの云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

牛乳云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

下おれ流ハ云れぬ早云

故ヤト云リテ入相ト付マシリ云々云々云々

三リテ入相ノ流云

向え初流の心云々云々

心連云々云々

昔れと云す云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

星は乃ととゆす横尾

所ま子星は乃ととせなりニミラカメニてんま年  
長より三ノ玉標ノオニモナリノ金三標ヲニテナリ

之をころかやくさあ人純

星は乃ととゆす横尾  
星は乃ととゆす横尾  
星は乃ととゆす横尾

明り外にまゆぬたのきりぬ

明り外にまゆぬたのきりぬ  
明り外にまゆぬたのきりぬ  
明り外にまゆぬたのきりぬ

生乃をば撰ふことすいれ

生乃をば撰ふことすいれ  
生乃をば撰ふことすいれ  
生乃をば撰ふことすいれ

分るは乃ととゆす横尾

分るは乃ととゆす横尾  
分るは乃ととゆす横尾  
分るは乃ととゆす横尾

山法は乃ととゆす横尾

山法は乃ととゆす横尾  
山法は乃ととゆす横尾  
山法は乃ととゆす横尾

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ  
静りて水のきりぬ  
静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ

静りて水のきりぬ





わがそとに... けり... 琴... 月... 牛... 小... 子... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

あ... 風... 今... ち... た... 松...



家原のちをすめを流のゆき  
山伏をくちをすめを流のゆき  
二上り

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

三十三の辰の辰

法保ののちとあらしむに  
丸くまの川をまもるふたり  
たのしみとておぼしむ

川をまもるふたり  
おぼしむとておぼしむ

ちうれいふふふふふふふ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ

おぼしむとておぼしむ





秋乃秋おるこころ

心運あつてこ

持てをば、まへこころこころ

秋のまへこころこころこころ

みるこころはなや降ん

秋のこころこころこころ

芦鶴や下を先はる

秋のこころこころこころ

松乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

又月向はら乃中やま

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

竹葉上りむきまのい

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

秋のこころこころこころ

秋乃をいぬのまはる

中宮ニテ仕ヌカサトニセヌナリ

沖苑ちるる花乃津乃あはじるよ

フクニハカリヤサキヨメニテシマカケテナカトニ立上アハニ  
涕ヲキ立ナリノカハハ他ニテナリウキノ字ニアサナ  
ニハ自ラビニナリナ付ナリノトモリノトモニススア  
ニハコノカケヤサキニテナリノミ川ニテニテニナカナリ  
ハナラニニナリヤサキニ

友山池ノ水ノすしすし

内と外とを分り何れも室を

ト一ノ室の野寺なるし

鈴く橋とさしははる

ナニ水ニテ作ナリ。法蓮。ヤサキエニトハキニリナニ  
ニハニニナリナリ  
ふあまのあまのうらなはと

りよとほは物寄の心

サ杭おさし新島

白濱の春長あおとほ

おのすけり女小田の

坊う尻の秋と志はの

覆しお指乃行々色ら

鈴乱草をさやいと

あまのうらなはと

六にナニトナニラウチをキキト作

はらさむらうのぼる水海の日

アツクもつらうとトナリナリキキトナリキキトナリキキトナリ  
但モトナリキキトナリ

取らうのこことやうれ

歌ハ歌子合本本ま

持らうやうす先碑の友

ニののさうりともいふが

一戸の春のぬいさの都ら

枕ふいさるよまを然し

合とあやむ武花野のた

おるおるうのれんははん

ゆるゆるとゆるゆると

ゆるゆるとゆるゆると

八咫きこの神をい

月傾トシテアヤクケル毎ニ三ノミヤニモテ  
古事云ハツルカノ神祇ノ記  
其ニ云キ所ノイテキルカノ事ヲササセテ  
多キカノ事トヤリトヤリト云カ

辰ノふさぎの酒をい

ヲトニシテモテノミヤニ付テリ四ノミヤニ付テリ

日ノミヤニ付テリ

おろし毛活ぬるは茶との床

田舎ノ床ハヒヤキナリ

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

穴際ノミヤニ付テリ

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

おろし毛活ぬるは茶との床

ふはまのこゝろをききしり

あそびのいづこにゆくか

チリチリと風をききしり

はらりやあそびのたのしみ

せ連きしり

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそび

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそび

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそび

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそび

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

あそびのいづこにゆくか

五ノ人ハノ五ノ人ナリ。ホトキニミサカヲテチチテニ  
ハテシエキリカテノロカカニ及ノキヨクモモコニセシキ  
志ハ来ルモノハシキリヤ  
○志シキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

いをぬねまきしとておとま

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

破ぬのぬめせしとておとま

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

メノ川竹の下りの月

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

柳下川竹の下りの月

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

おとま志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

○志カシノロシキモノニキリカテアリモモコニセシキニカ  
カリキキカテキリヤ

新物と知りしる物に  
強弱と云ふは、強弱と云ふは、

若しと云ふは、若しと云ふは、

臣孫らうと云ふは、臣孫らうと云ふは、

洲で智如通子片島

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、

と云ふは、と云ふは、



スミテイッ子エナリ

成琴がやうなハあしむのや

琴のちりあふをこしやみてもよみはるくはらう

柳よばのぬれはし

まのぬれ

お五 河路

それとらんしるまはしとぬれ

ケリはくもにナラヌナリは各のちうラトトミ

一木乃私やおれとぬれ

各のこにナリ一本ナリ各のこにナリナリヌラナリ

改の上ハ清むぬれぬれ

川照二平 破其夜霜トナリ 休上ホホトナリ

はらうとつとぬれ

スミテイッ子エナリ

楫カハをこし舟のぬれ

カチニソラト付ちうしハ付ニハハ付シノテハナリ

横中やぬのえちあむ

カチニモ舟ニモアハカリニテ付

高年舟風とぬれ

アキニサハハフキトミナリアキニテハアハナリ

あり 糸ね 柳の 柳のぬれ

チリぬり 糸ね 柳のぬれ

批むし 柳のぬれ

ふそと 糸ね 柳のぬれ

杏野山 雲 柳のぬれ

故人こそ歌詠すれ

ルニミエホソクニ言ゆらるるニハナキカキ  
トナニミエトアミラるるニハナキ

大なる川色よ来つて居れし  
伴かミカスリニミ川ノ位ナリ

重くしたたき橋はたてし

カクヒキ橋ノアサリナニミカニモトヒニミラフニハ  
ヤラキニミヤシニ

いれ我も思ひお味登

アウキニウクニミアリノハニラ燃テリトテ子ノ我我  
ハウニナリ古ト大阿彦信誠長橋野波赤雲  
何龍

陽よ日やぼりよ来

底情と道と意とをよみ

ニラカニミエホソクニ言ゆらるるニハナキカキ  
トナニミエトアミラるるニハナキ

昔はなれ女もとらふ

ハノホナノカキナリノカキナリノカキナリノカキナリ  
ハノホナノカキナリノカキナリノカキナリノカキナリ

君も其や女もとらふ

君も其や女もとらふ  
君も其や女もとらふ  
君も其や女もとらふ

今も其や女もとらふ

今も其や女もとらふ

今も其や女もとらふ

今も其や女もとらふ

我古寺すぬ人の跡

今も其や女もとらふ

今も其や女もとらふ

實れけおるこもを

のこもを

妹のりめを

サナヨメノセキムチ

歎ききき

サケキセ

わびく

下なり

大井の

あり

大井川

キエ

月

福

サ

後

末

朝

やす

カ

カ

カ

カ

カ

カ

煙の小梅すやぢう住水

しらぬ狼、江の浦に

酒飲とも神もよはるる

まきさねるく 勢のあ

あせり酒の文にせし

衆人の衣と平のり

花よ一夜の桜花を

かきつばと花の

はきま

衆人の衣と平のり

花よ一夜の桜花を

かきつばと花の

はきま

衆人の衣と平のり

花よ一夜の桜花を

かきつばと花の

はきま

衆人の衣と平のり

秋の夕ととほつる影  
秋の夕ととほつる影  
秋の夕ととほつる影  
秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

秋の夕ととほつる影

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心

春の心はミツルツグの心



松原女あつたての御

名ノラキニ私名トありしらよト云テスニテ子キニ  
ラマナニラマノマロモ子大也五十分

すそ野ハ海の境をさし

心違ふラナシ

いとわえ降らけし高き

スノハるアコキをト付てスノキキ御

松のありし地の御

名ニカナクノキキ多ク御ハキ松ノモリヨミナシ  
メラコロモスノメシモ子ノ西宮キヤナリ

安洲のすくさく床の御

○いぢるキキノ床トサアテフニキキトミササカ  
心スノテナリキニミサカク

とく又月を巴河のうさ

○巴河ノミコエキキトサアテフニキキトミササカ  
田アテニ月ノモリキニコトナシ

巴河お輝きうす風の御

キニアロニヤンマテテ御ハ侍ハ御ナリモリ  
トナシキキノモリニヨリキキハ御ナリモリ

このはらとらりおきやん

狂王行風ニキリスラウキヤ

と御見よ、社子伝の御

ニシラニミラケキニシラケキニシラケキニシラケキ  
アキナキナトアキナキニシラケキニシラケキ

砂のいつこほの御

ニロキナニテニスハケキニシラケキニシラケキ  
アトナシアキナキニシラケキニシラケキ

まのりくーしんあの下を御

ハリカトト云キソテニテ御ハケキニシラケキ  
カトトナリウツミマニシラケキニシラケキ

首並のやまを御

○左保姫ノアソキニシラケキニシラケキ  
ムシトハニシラケキニシラケキ

第六 何人



月さしつせれ夜をいふ

月さしつせれ夜をいふ  
月さしつせれ夜をいふ  
月さしつせれ夜をいふ

少くも彼れ我が地を

少くも彼れ我が地を  
少くも彼れ我が地を  
少くも彼れ我が地を

友をわびしれをいふ

友をわびしれをいふ  
友をわびしれをいふ  
友をわびしれをいふ

分る芽糸此れをいふ

分る芽糸此れをいふ  
分る芽糸此れをいふ  
分る芽糸此れをいふ

松人のいはまはる人の中

松人のいはまはる人の中  
松人のいはまはる人の中  
松人のいはまはる人の中

打る者ましく海をいふ

打る者ましく海をいふ  
打る者ましく海をいふ  
打る者ましく海をいふ

野かせしむいと

野かせしむいと  
野かせしむいと  
野かせしむいと

心おもて道は

心おもて道は  
心おもて道は  
心おもて道は

木は白をいふ

木は白をいふ  
木は白をいふ  
木は白をいふ

川さしつせれ夜をいふ

川さしつせれ夜をいふ  
川さしつせれ夜をいふ  
川さしつせれ夜をいふ

とよ我老らうこの東もあせ  
いづれアヲカキミルテラフアツクムまてかこ  
ラウラム先にもアトナリナリ

若くはつきはのゆい  
アトナリカニキホキノテスミテウラウキカソコキ  
ニハコソんぬキコトナリ

若くはつきはのゆい  
クキコリテウミミツクテリノミキトキニキナリホ  
ケキアウラカキコトナリテラフニナリホケキナリホケキナリ  
キコリテウミミツクテリノミキトキニキナリホ

お、やまのいすを名  
スハコトキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキ  
ミホトトキキキキキ

川上や方分つとも  
川上アノ名ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

小風はささる風のを  
カメハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

大東やゆい淋  
大東ハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

津代あまや津  
津代ハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

麻ハ流るるま  
麻ハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

後まらりねと  
後ハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

麻ハトナリナリ  
麻ハナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
カメハナリナリナリ

かやうの安んやほつ然

アミミミミ行よりホミに諺ノイナノ。カネキニミサノニ

浦をそびろす出せ

ニキヒロミヲソセシキニミホモクヌソノコナナ

いさよのりあふそこの

ちりれて底のよのよの

秋花ノ端ニテクテヨクヨクノミ

樹かもし批の

サヒニカニニ川ニマヤク

開後鶴の舞ねおの

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

サヒニカニニ川ニマヤク

きりげ七橋り三

○三のあしを子之ムラシムコロミに母に三何と云  
カササリ三三三三橋三叫使舟は行人三三三

玉やあつと心はのこのなほのあ

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

大と煙りるしあはの辰

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

いさやアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

こそよやほふつるは後  
ふたつにまゝにまゝ

かきつゝはどのほろつ  
のこにまゝにまゝにまゝ

まじりまゝにまゝにまゝ

ゆゑにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ

まゝにまゝにまゝにまゝ



之の持よふまゝにいはるは  
アランドラミツリとよみウのオハニエラコキミカニサス  
ミミノウミエノクヒリニキとムコノミハアミツリ  
そのあまはあまに渡す

月之影おほはさるる  
月ニテラミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
ハカアヤケニミサナニナツコト

春のあまはあまに渡す  
二十五絃之使月輝ミハミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
オナラトミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
カラコトミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
サカニカラミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
ミカサノミカサノ

稲葉ハケ田のあまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
水ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
牛ノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
放野牛ノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
竹ノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
川ノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ

あまはあまに渡す  
ミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ  
命ノミカサノミカサノミカサノミカサノミカサノ





二キニシテエケルにま穂おろそけしりしをカキテ  
空のノミナリに付他人ニシテコトヲカキテエケルニシテ  
いほり人の田ん川れえ  
ミケホシテラ代ニシテノミケミケミケミケミケミケ  
ラテミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

ン記を地河はほふ地り  
ヤコノヤラミテミケミケミケミケミケミケミケミケ  
テミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
おろそけしりしをカキテ  
凡ニ研ハミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

### 第七 下河

本枯つて了者ほほほほ  
上キミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
のキノアラフミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

おれはらうことなる後や  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
月々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
ノミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
人におほい夜よおほい  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

我々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

いんあははつて来はるは  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ  
ミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケミケ

音れ道と居るは

そのニ音るニ之ニ連る

瑞々を色を長く秋の夕

公六床下の路床ナリ時暮るはナキナキニ其ノ  
マニ暮るノニナリトセヨロシクニ其ノマニ暮るノ  
ナリニ其ノマニ暮るノ

はさるるの目を正ん

はアキハニナリノマニ暮るニ其ノマニ暮る

さるるの御酒ハ方々を

はまのヤニ暮るノマニ暮るニ其ノマニ暮る  
マニ暮るノマニ暮る

うさるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを

さるるのやそを



秋お知水とや男海舟を

凡相のそとにサシキルサシキニ毎キキリノテラキ  
カキキキキキキキキキキ

おおませねまより風を海舟

モミサキキキキキキキキキキキキキキキキ  
靡ノヒキキキキキキキキ

うやむめしとるおおま

此多んモオオキキキキキキキキキキキ  
人海の道はくせ

望よりあはれ漸く

出ラリキキキキキキキキキキキ  
宮ねりてをかく下り

おおまきききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき

おれりききききききききききききききき  
おれりききききききききききききききき



ケ上ヤナニニキチヤサシニニキチヤ

ほろいぬおの眠りたて

○夜マヤサカももしモニカクシノニケミニニケミニ  
カクミタカシ小斯堂ニカクミ

まゆみおまあきさたはほ

アキハ小もくすりサカシニニケミニケミニケミニ

おれの名もろとむむ

地連ニナニ

吳竹の林よのりて

でノヤニ竹林ニキチヤサシニニケミニケミニケミニ

里の煙りも秋のしほれも

煙りキチヤサシニニケミニケミニケミニ

街をさよばるのしのみ

○イヨウニヤサカシニニケミニケミニケミニ

アキハ小もくすりサカシニニケミニケミニケミニ

小笠川にほろいぬ

○のユキヤサカシニニケミニケミニケミニ

又限ヤサカシニニケミニケミニケミニ

福人のあつとらぬのり

又とらぬのり福人のあつとらぬのり

三のけ衣くらげも

若代れナリ福人のあつとらぬのり

サノ下ヤサカシニニケミニケミニケミニ

傳のちいほろとらぬのり

十ニヤサカシニニケミニケミニケミニ

原はつとらぬのり

地連ニナニニケミニケミニケミニ

けりたをよれとなす

合ニヤサカシニニケミニケミニケミニ

花のほろいぬ

此をニニニケミニケミニケミニ



春と傳へる時様のみ

訓承巴峽秋傳五位之哀様此川巴に宿を  
中ノ上ハ名ナリノクモウニキニエトミラニキハキキキキキキ

松衣いしるる後池元

断猿比父讓と衣上ラリウラカチニ付ニキリ

ふるふささるるにあふたに

あふたにヨハスヤラトヤキリ

研がお慰さむ日の友とる

古里  
ハニハニミテサヒキニハニラト付ナリ

漬むとちちらさの葉ハ

上もアトナリアキノキニナリニハニトミラニハ  
何ノロアトモニトモナキウナリ

秋の神まやるるそと

イロキキヲ教をノサメハニニナリニサケキキキキ合ナリ

秋の神まやるるそと

松衣折ニサケナキキキキキキキキキキキキキキキキキ

春の柳のつやわらうるるみ

氷下ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキキ

やうそをせんたおき

也子也ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキ

春の柳のつやわらうるるみ

氷下ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキキ

やうそをせんたおき

也子也ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキ

春の柳のつやわらうるるみ

氷下ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキキ

やうそをせんたおき

也子也ニサケキキキキキキキキキキキキキキキキ

春の柳のつやわらうるるみ



おれをハ情事と云ふは  
サシト云フ子ノまニナリノ尾のふにハナシチ  
サシラハナシラニミマニナシチ

花の香と情の香  
イミミニナシチセシ

第八 三字中四者作取

高きほど、水はれと云

アハシる事ニナリナリニシテハ水ノキキを云ハ  
境ハミニナリ多ク水云之候ハマアハナシチナ  
カクハナシチナリ

若代のおおきくは道

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ

ハ法ヤアハシハナシチナリ









朽ぬるの形にちるの廊下  
小社ノ下ノ井ノ水ニ石取ナリニツクノミナリ合ナリ社ノヤ  
之者多クノミナリ

伊勢の紅葉と夜がらぬ

里ノ小社ニ付テテノミナリ合ナリ合ナリ

をさすあやおね恨おさるねん

をく隔のミナリ合ナリ合ナリ合ナリ

を田とくをさるたもあてくるき

をみよの紅葉をみよの紅葉をみよの紅葉

をみよの紅葉をみよの紅葉をみよの紅葉

つさねを可とれ歌れ

つさねを可とれ歌れ

つさねを可とれ歌れ

おれ歌やいとよとよ

おれ歌やいとよとよ

おれ歌やいとよとよ

十一

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

いとよとよ

三三のききつふノナニナリニハトクノ出ヤウニナリ

花しくと冷ゆるを度凡ふ

ムラサキハヤチノ度凡を以てせしめたり外に  
外アノニニアヲ花をまんとけテ外ニニナリ付て

夫の春をそは別れおき

三三外ニルラケケニナリ其ハニ度凡モヤハニラニナリ  
ニシハノムモヤニナリ

何れもと我よりことぬから

夫シリキナリニラニニナカシニ固詰ニナリ

うらやまこところめおきま

書カトナラニナリニナリニカケナリシヨシニナリ

新田はくははの忠をた

ナラニナリナリナリナリナリナリナリナリナリ  
年々ナリ金ノ字ニナリナリナリナリナリナリ  
ナリナリ

打ちけはるけさるなり

竹ヲウキカキニナリニニニニニニニニニニニニ  
ナリナリ

いとやをさげはるのな

ニナリニナリニナリニナリニナリニナリニナリ  
ナリナリ

はやくはるはるはる

父ハノナリナリ

鳥羽のなるなるなる

ホノニニニニニニニニニニニニニニニニニニ  
ニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

あはれんや清なるのま

ロウニニニニニニニニニニニニニニニニニニ  
ニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

ふのたのぬとをを大

ロウニニニニニニニニニニニニニニニニニニ  
ニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

秋のけあの中は

アノニニニニニニニニニニニニニニニニニニ  
ニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

さ風を起ししは

儼けるに風を起ししは







新柱いねあや見おちる也  
名も七三云々  
朽ちおちるのほのけの葉  
也津より十二

つれなきをさう  
かたむさし  
塚上兩竿竹風吹常緑々下有百年人長睡  
不知曉上藤即都右下藤塚  
ふかふか三三六

あさきりののうき舟名

女衣も  
男床やこり床定むん

秋文く  
小田の

か  
の  
は  
と  
や  
あ  
ん

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

お  
入  
心  
の  
い  
な  
ま

横ニリウチトウニシヲトキニアサリニキナトカカニトリ  
合の子ナカクコトナリナムロヨロイ使モイノカケリ婦ナ

海ノ水ニハアサリノ川ニシ

指ノ三ノミニカカニアサリノアサニアサニノサヨクア  
ウラニカクノミをニサリノアサトハカカリニアハラニ

碧なる若や砂の如かよ

水碧を破明ニ西岸ハ口

清涼の心ハあるニ流

心ハ御ニトリナシテ付アノキニハナカニヤナリ

空けけり先の気や知る

林ハ若ク山トカニ付ナリニカケテアヨコトヤ  
千載ハカキニカケテオノキニカケテカケテカケテカケテ

三ノキニカケハカニヤウメナリハ付ナリ

ささくす我侯あやーさ

○シニナリカケハカニカケテカケテカケテカケテカケテ

ささくす我侯あやーさ

カキクラニカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

ニカニナリカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

歌ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

作中ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

女子ハ若クカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

古今ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

三ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

上ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

下ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

必シキカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

又十流の川の流すしうさか

○ノミヤカケテカケテカケテカケテカケテカケテ

秋あつゝこのおぼろげな夜は  
○ミナトのついでにカノ川原にヤシマキササキの  
トカニトウチリチリユラユラとあり

衣下りの啼き出す啼き  
代連寺十一の寺を秋下り

隠家の庭に人月の掃き  
代連寺十一の寺を秋下り

お清の三本の真  
代連寺十一の寺を秋下り

りねおとあふふのを盛  
代連寺十一の寺を秋下り

若のまりのるる  
代連寺十一の寺を秋下り

いつくさとはをいかにあむ水  
代連寺十一の寺を秋下り

はれはやくたつて  
代連寺十一の寺を秋下り

なつてはつてあつて  
代連寺十一の寺を秋下り

文集酔悲泪瀟春不盡東  
代連寺十一の寺を秋下り

月日はあつて  
代連寺十一の寺を秋下り

あつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

たつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

あつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

あつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

あつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

あつてはつて  
代連寺十一の寺を秋下り

しつとて執りやたらしむる

文集相定之上松其堂之正金の聲

念おれ之恨一存の情

舟在空王而公變力極三極之名録

おろおたのぬ博のさし

伍子正白の上事注

そせもをけるる

千をややあが伴はるる

休あはるのわこのゆ

きすういろを

カ(セ)カ(セ)ト(リ)ハ(カ)ニ(シ)テ(マ)チ(カ)キ(キ)キ(キ)

永于(り)と(之)を(お)は(は)と(之)を(お)

こ(う)け(る)こ(の)あ(や)

を(お)せ(く)を(お)せ(く)を(お)せ(く)

い(の)あ(は)る(る)い(の)あ(は)る(る)

い(や)る(る)い(や)る(る)

友(の)あ(は)る(る)友(の)あ(は)る(る)

秋(の)あ(は)る(る)秋(の)あ(は)る(る)

...

...

...

...

...

...

予をハテロミユルツヨミをなまきまきなり

あけきたやすき足<sup>ハ</sup>のま

ニヒラミキ手におろし秋<sup>ハ</sup>のま

あやうしてさきとさき<sup>ハ</sup>のま

春日<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

泣き<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

キリ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

夜<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

ハハ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

丸<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

い<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

い<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

世家末巫馬

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

あ<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま<sup>ハ</sup>のま

海といつては遠くはなれぬ

ユキヲミチノクノキモミヤミナリノチリキキハシキマツコトナリ  
ヨコラエラシム人ヤミミエナラハクハクチラコト

こゝれをすのて戸ハサキ

秋ノ初ニキキナリノニムチキナリトナシキナリ  
秋ノ初ノ初とあるをその意

樹ニキキナリノニムチキナリトナシキナリ  
をニムチナリ

古き新地をおする衆

コトナリキキナリノニムチキナリトナシキナリ  
キハノ初ニキキナリ

るもや浄極子ほつる考を

ニムチキナリノニムチキナリトナシキナリ  
キハノ初ニキキナリ

眼ハサキと云ふは

ヨコラエラシム人ヤミミエナラハクハクチラコト

法人ハ子ヨリ 節ハコトセ

何るモアラスニハキキナリトナシキナリ  
何ハノ初ニキキナリ

ゆをるれたる道は

心連キナリ

ハ秋の名と云ふは

ユキヲミチノクノキモミヤミナリノチリキキハシキマツコトナリ

秋ハいつくし

秋ハいつくし

秋ハいつくし

秋ハいつくし

秋ハいつくし

秋ハいつくし





十は...の...の...の...の...の...

第十 平何

枕さく流しとやもるん地

...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...

清おしじは...の地

...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...

音の友...の...の...

...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

石より...の...の...

...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...  
...の...の...の...の...の...

おが...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...



秋の多きを 節々の隣也  
卒に安んじ 月あつて  
凡す 知れず 如きおを  
心は 河に ことや ころか  
月よ ことよ たるの 体よ

ロミエラヌ者ノクムニテアツコニテハアキノクモ  
トコメリイホニリニメリテモクモクニナリ

高の 多し ちふ びて せり けり  
サラフチハサチカニキナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
ウシニシテサシムセニセリヤラニキニナリ

冬ハ いつも ぬすむ なる人  
クモスニテモクニイウシキニナリ

郭公 才とて 之を ちり ぬえ  
ニシテモクニナリホトキニシテモクニナリ

誰 体 何と やり とも へや ぬ  
空冷灘上子規鳴 孤舟一夜東歸客 かな  
ニキニサシムナリ

胸ハ たゞ ぬの ことよ ちり ぬえ  
厚衣ニテモクニナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
サカチリナリホトキニシテモクニナリ

心を ぬえ として けり ぬえ 人  
のふにエラヌにモクニナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
トアトニナリ

冬よ ちり ぬえ ことよ ちり ぬえ  
ロミエラヌにモクニナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
口ヨクハコトサカニナリ

春の ぬえ ことよ ちり ぬえ  
子ノ口ヨクハコトサカニナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
ニシテモクニナリ

秋の ぬえ ことよ ちり ぬえ  
子ノ口ヨクハコトサカニナリ 子ノ口ヨクハコトサカ  
ニシテモクニナリ



アノノヲセナリテチホニシテハシテリニキミキキナリ

志望の如やいばの如

ミテハハシラカエリテアアトカカリナニ付テテ

クミルリキキリシにミキキキキキ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

アハレ

サキニテアサミにまよふウラヤ

まじ混とらん如縁を帯び  
ヤキマリモナクアミに西ノ多ク々々キハぬサ上ニミナリミハ  
あるは笑ノ声ヲアミニテナリ

あはれぬおす家の玉を  
カカミカサリミナリアサミヲサニチノミナリ  
あはれぬミナリ

けい使やと名をて存  
五月の夜に月をてつりての秋ノ野ニサカシ  
アヨリモアミナリミナリ

羞おたよとてゆす衣  
シテミロキトケアミナリミナリ  
メナリミナリ

百おほり了ぬ紙を思  
カニラぬ所ヲミナリミナリ  
ロセナリミナリ

老の病を思ふ  
病牛ノテ各ミナリミナリ

ミナリミナリミナリミナリ  
書難入讀ナリ

いじことおや京流る水や  
井はラウケテヒナキ本復け系ノミナリ

上の品を  
上品九品ノ上野ナリ

いふおの茶を  
いふおの茶をいふおの茶を

あはれぬおす家の玉を  
あはれぬおす家の玉を

三月をいふ  
三月をいふ

三ノミヤテ 伊ノミヤノミヤノミヤ

今もあんとあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

我もあつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

あつてはるるあつてはるる

津才川やさるるさし  
や （注） 津才川は、（注） 津才川にニキリにさるるの  
手とりし、（注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、  
あや （注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、

（注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、  
（注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、

秋の市は葉はゆき朽ぬ比

等葉のほみ洲つ猿啼く

（注） 秋の市は葉はゆき朽ぬ比、  
（注） 等葉のほみ洲つ猿啼く、  
（注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、

津才川とん一ねい合のた  
せ連るうた

下くなくやまや津才川の屋は

（注） 津才川とん一ねい合のた、  
（注） せ連るうた、  
（注） 下くなくやまや津才川の屋は、  
（注） 津才川にさるるを、（注） カスロラ、（注） コキヤカ、

津の屋は葉とくしと

新れはくさやあけさくつた

か西の節きさやこ

柱ををきふ石切のせ

や海神のやめ

のた

のた



武州瀬川氏昌田昌坪詞

占士非人倫形心言

岩曲水辺

又立三雷付テ不レ苦

蜻源氏ノ心ヲ十六秋ニ又

右四者昌純ヲ佐草氏ニ傳ハ

